

ラジオの森の西東京さんぽ

玉川千川上水ウォーク



ルート制作・監修
滝島 俊

武蔵野台地のわずかな尾根を見極めて、高低差を利用し開削した玉川上水と千川上水。飲料水や農業・工業用水として使われたけど、今はもう使われていないんだ。遊歩道の木々や植物、上水に飛来する鳥に出会える癒しスポットとして親しまれているよ！



武蔵野市



千川上水

千川上水は、第五代将軍・徳川綱吉の時代(元禄9年・1699)に、小石川御殿、湯島聖堂、浅草寺御殿、六義園など、将軍御成の地への上水として開削されたため、神田上水、玉川上水と並び「江戸の三上水」と呼ばれました。江戸への飲料水、農業用水としての供給が終わると、近代工業の発展に伴う工業用水としても利用されました。当初は玉川上水の境橋付近(西東京市新町4丁目)から分水されていた千川上水ですが、水質汚染や疫病などによる廃止と再開が繰り返されました。分水口の付替えも行われ、現在は平成元年(1989)の清流復活事業により流れが復活。分水も復活し遊歩道も整備されています。

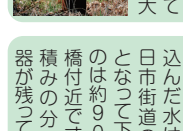
1 玉川上水・小金井サクラ
西東京市域の玉川上水は、新町6丁目から新町4丁目の境橋、千川上水取水口までの約700mです。上流から続く堤の桜並木は「小金井サクラ」として賑わっています。



(大正末期の小金井桜の絵画)

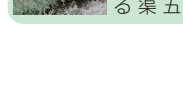
2 千川上水取水口(2)

明治13年に岩崎弥太郎によって設立された千川水道株式会社によって、千川上水は飲用として復活します。その時に水量を増大させたため新たに増設された取水口です。明治40年迄使われていた様です。岩崎家が確認できます。



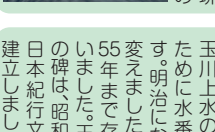
3 千川上水取水口(1)

明治4年に設置され、昭和41年迄使われた取水口で、ここから取り込んだ水は玉川上水に沿って五日市街道の下り線の地下を暗渠となっており、開渠となるのは約900m先の境橋付近です。現在石積み分水堤と岩堀が残り、水が流れています。



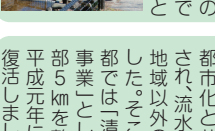
4 スターバックス(旧くすの樹)

この地には地元で暮らした珈琲館くすの樹があり、西洋のシャトーの様な塔がある建物で、相棒などのテレビドラマ等でよくロケに使用されました。



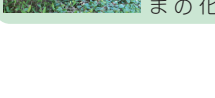
5 水番所(水衛所)跡・玉川上水の碑

玉川上水の流量確認、整備清掃のために水番人が置かれた場所です。明治になり名称を「水衛所」と変えましたが、昭和55年まで存在していました。玉川上水の碑は昭和56年に日本紀行文学会が建立しました。



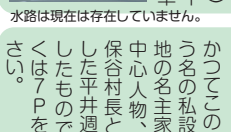
6 千川上水清流の復活の碑

都市化と共に下流域では暗渠化され、流水も途絶えたことから、この地域以外の殆どが暗渠化されました。そこで東京都では「清流復活事業」として、開渠部5kmを整備し、平成元年に清流が復活しました。



7 鎮守前水車跡地

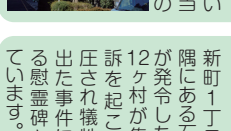
上保谷新田村(現西東京市新町)の名主であった平井伊左衛門が千川上水の水を使うこの地に水車を設置しました。水車を回すための水路は千川上水から、専用水路として分水したものでした。



水路は現在は存在していません。

8 康楽園跡地

かつてこの地には「康楽園」という名の私設庭園がありました。当地の名主家であり、御門訴事件の中心人物、また後の保谷村長として活躍した平井通作が設けたもので、詳しくは7Pをご覧ください。



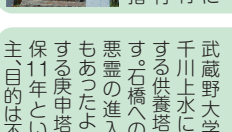
9 招魂塔

新町1丁目2番にある墓地の北隅にある石塔。明治3年に品川県が発令した社会政策に対し、近隣12ヶ村が集団訴訟を起こし、弾圧され犠牲者が出た事件に対する慰霊碑とされています。



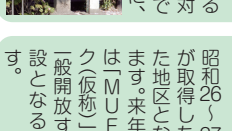
10 文字庚申塔

五日市街道と鈴木街道の分岐点に立つ文字庚申塔は、上保谷新田村が天明4年に建立したもので、村の入り口に造立されました。市指定文化財第20号となっています。



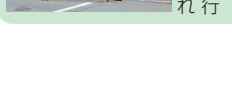
11 石橋供養塔・庚申塔

武蔵野大学前の交差点を横切る千川上水に架けられた井口橋に対する供養塔で、天保12年の建立です。石橋への感謝と供養と同時に、悪霊の進入を防ぐ狙いもあったようです。隣接する庚申塔は、造立が天保11年という以外は願主目的は不明です。



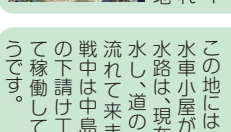
12 三菱UFJ銀行武蔵野運動場

昭和26・27年にかけて旧三菱銀行が取得した運動場で、緑が残された地区となっています。来年6月には「MUFJパーク(仮称)」として、一般開放する新施設となる予定です。



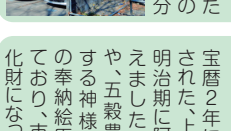
13 親和橋(いづいし橋)

柳沢3丁目と武蔵野市八幡町4丁目との間の千川上水に架けられた小さな無し橋。昭和34年に地元の方の熱意と行政の理解により設置された架け橋です。「こいこい橋」の愛称があります。



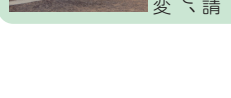
14 坂上水車跡

この地には元々平井家が設置した水車小屋がありました。水車用の水路は、現在の霞窪橋付近から分水し、道の北側を流れてきました。戦中は中島飛行機の工場として使われていたようです。



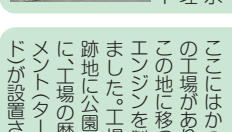
15 阿波洲神社

宝暦2年に栗嶋明神として勧請された上保谷新田の鎮守様で、明治期に阿波洲神社と表記を変えました。安産祈願や、五穀豊稔を祈願する神様が多く、奉納絵馬が残されており、市の指定文化財となっています。



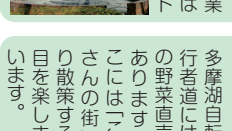
16 多摩湖自転車

村山貯水(多摩湖)から境浄水場までの約10kmを結ぶ送水管が埋設されている都道で、現在はサイクリングやジョギング等で賑わっています。然るかな道です。起点には水の神殿のモニュメントがあります。



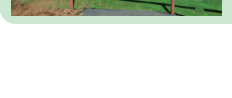
17 おおぞら公園(シエットインのふる里)

ここにはかつて石川島播磨重工業の工場がありました。石川島重工業の工場に移ったのは国産シエットエンジンを製造していましたが、工場は移転し跡地に公園ができた際、工場跡の歴史とモニュメントをテーマに「シエットイン」が設置されました。



18 野菜直売所(ごびとさんの街)

多摩湖自転車歩行者道には多くの野菜直売所がありますが、ここには「ごびとさんの街」があり、皆さんの街が散策するのを楽しませてくれます。



玉川上水

江戸の人口増加に伴う江戸市内の飲料水不足を解消するために作られた玉川上水は、羽村の多摩川から開削が始まり、幾度の困難を乗り越えて、承応2年(1653)羽村から四谷大木戸までの約43kmが通水されました。高低差は僅か92mという高度な土木工事でした。翌年には江戸市中への通水(地下水道)が始まり、江戸市民の生活を潤しました。

スタート

駅から離れた場所にあるのでスタート地点は好きに決めてよいよ。



①～⑭:約3km(約55分:見学含まず)
⑮～⑳:約1.8km(約33分:休憩・見学含まず)

玉川上水、千川上水とも基本的には左岸(下流に向かって左側)を歩くことを想定していますが、歩行者としては渡れない所もありますので交通ルールに則って歩いてください。



842fm@842fm.com